

事務事業チェックシート

事務事業No **693** 事業名 **車駕之古址古墳公園管理事業**

分野別目標	5	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち
政策	4	文化・スポーツの振興
施策	1	文化遺産の保護・継承
基本方針	2	文化遺産の公開・活用

事業種別	継続	主な事務事業
事業期間	～	
事業実施の根拠法令		
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	文化振興課	有本 光博(435-1194)
関連課		

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費
	その他		
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務
	その他		
会計・予算区分	会計	一般会計	
	款	教育費	
	項	社会教育費	
	目	文化財保護費	
	大事業	文化財保護事業	
事項	車駕之古址古墳公園管理事業		

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
			○	
44の約束				○

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
	県指定文化財（史跡）車駕之古址古墳公園を適正に維持管理する。	車駕之古址古墳公園〔場所〕和歌山市木ノ本714番1ほか〔面積〕9,160㎡ 〔内容〕県内で最大級の前方後円墳で出土品では金製勾玉が有名。公園内の草刈り、樹木管理、清掃などの維持管理事業を行う。周辺の小学校5～6年生の社会科授業として、現地説明会を開催し、郷土の歴史資料として活用する。学習効果を高めるために古墳上の景石を継続的に古墳外へ移設している。				
実施内容		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		小学生を対象とした説明会を実施。草刈り・清掃などの維持管理事業。古墳の景石6個を移転。	小学生を対象とした説明会を実施。草刈り・清掃などの維持管理事業。古墳の景石5個を移転。	小学生を対象とした説明会を実施。草刈り・清掃などの維持管理事業。古墳の景石10個を移転予定		

2 事業コスト

		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	計画	決算
事業費等 千円	事業費	3,855	3,377	3,336	3,305	4,324		4,324		4,324	
	伸び率 (%)	-	-	-13.5%		29.6%		0.0%		0.0%	
	人件費	常勤職員	1,451	1,465	1,457	1,430					
		非常勤職員									
		小計	1,451	1,465	1,457	1,430					
	国庫支出金										
	県支出金										
	市債										
	その他										
	一般財源（税等）	3,855	3,377	3,336	3,305	4,324					
所要人数	常勤職員	0.19	0.20	0.19	0.19						
	非常勤職員										
主な予算内訳		植栽等委託料 2,749千円				移設委託料 1,000千円					

3 目標及び実績

		指標名及び達成状況			平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	説明会実施回数	年度目標値			2	2	2		
		実績値			2	2			
	単位	回	全体目標値		全体目標達成度	100.0%	100.0%		
成果指標	説明会参加者数	年度目標値			150	150	150		
		実績値			165	135			
	単位	人	全体目標値		全体目標達成度	110.0%	90.0%		
	年度別達成度	年度目標値							
		実績値							
単位		全体目標値		全体目標達成度					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持		○		
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	説明会への参加者は、小学校児童がほとんどであり、次世代の文化遺産の愛護意識の醸成に役立っている。
「見直し」 「改善」案	パンフレットの配布を促進し、より多くの人々に存在・歴史的価値を知ってもらうように努める。